

令和5年度 渋谷区立長谷戸小学校 学校経営方針

校長 木下 和弘

1 教育目標

「学びを楽しむ子 人を大切にする子 挑戦する子」

子ども一人一人が自分の個性を伸ばし、未来をよりよく生きるための力を身に付ける

長谷戸小キャッチフレーズ 「 未来へ 恵比寿へ 飛躍する長谷戸小 」

2 学校経営の基本方針

- 学習指導要領の趣旨に沿った教育課程の編成と公教育の果たすべき役割を認識した学校づくりを推進する
- 教育者としての自覚をもち、全教職員が一体となって教育目標の具現化に努める
- 一人一人の子どもをよく見極め、個性や能力に応じた教育を推進する
- 家庭や地域との連携を密にし、地域に根ざした学校づくりに努める
- 指導法の工夫改善と授業の質の向上を図る
- 教育環境を整え、明るく協調性のある職場集団をつくる

3 目指す子ども像

- 学びを楽しむ子
 - ・常に疑問をもち解決しようとすることができる
 - ・伝え合い、認め合いながら、自己肯定感を高めることができる
 - ・自ら気づき、自ら考え、進んで行動できる
- 人を大切にする子
 - ・明るい元気なあいさつができる
 - ・約束や決まりをまもることができる
 - ・相手の立場を考え、仲よく助け合う(協力する)ことができる
 - ・命を大切にし、友達を思いやることができる
 - ・自分が悪い時は、きちんと謝ることができる
- 挑戦する子
 - ・進んで体をきたえることができる
 - ・粘り強くやりぬくことができる
 - ・課題を解決しようとするすることができる

4 目指す教師像

- 一人一人の子どもをよく理解し、それぞれの個性を伸ばせる教師
- 感性豊かで人間的魅力のある教師
- 教師としての誇りと情熱をもち、自らの実践を問いただすことができる教師
- 常に研鑽に励み、指導力の向上に努める教師
- 組織の一員として、協力し合い高まり合う教師

5 目指す学校像

- 子どもたちが誇れる学校
 - ・自分の能力を発見し、伸ばし、その能力が発揮できる学校
 - ・学校に通えることのうれしさ、喜びが感じられる学校
- 保護者に信頼される学校
 - ・わかりやすい教育活動を常に実践し、説明責任を果たすことができる学校
 - ・保護者も子どもとともに学び歩むことができる学校
- 地域とともにある学校
 - ・地域の人が訪問したくなる学校
 - ・地域に貢献できる人材を育成する学校
- 教職員が生き生きとした学校
 - ・心身共に健康で、協働の中から生まれる風通しのよい学校
 - ・専門性を磨き、熱意や使命感が評価される学校

6 重点目標・指導の方策

① 豊かな心の醸成（人を大切にする子）

- 「特別の教科 道徳」の充実
 - ・道徳自尊感情を育て倫理観を培い、公德心や思いやり、寛容などの道徳性を養うため他者と意見を交換し、考え議論する道徳教育を実践する。
- シブヤ未来科の充実（渋谷シティプライドの育成）
 - ・渋谷区への誇りと愛着をもち、未来の渋谷を創造する担い手の育成
 - ・地元、恵比寿への誇りと愛着をもち、将来、地域に貢献できる人材の育成
 - ・郷土「しぶや、えびす」の伝統や文化などを学び、渋谷や地元についてより深く知り、深く関わる学習の推進
- 体験活動・ボランティア活動の充実
 - ・責任を重んじ、思いやりの心の育成や、社会貢献への意欲を培うために、社会体験、自然体験、ボランティア活動や交流活動
- たてわり班活動の充実
 - ・異学年における多様なかかわりと責任と強い絆
- 生活指導の徹底（月1回のあいさつし隊の結成）
 - ・あいさつの励行する（あかるく元気に いつでもどこでも 相手よりさきに つづけよう）
 - ・「くん、さん」での呼名、正しい言葉遣い、礼節、時間厳守を実践する

○特別支援教育の充実

- ・「みんなちがってみんなよい」多様な子どもたちへの理解を図る

○教育相談体制の充実

- ・副担任制度を生かした支援・指導
- ・いじめ・不登校の未然防止、早期対応
- ・SCの活用（全員面接の実施）

② 確かな学力の定着（学びを楽しむ子）

○言語能力向上の推進

- ・日常の国語科を中心にした言語活動の充実を図る
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を重視した授業改善を図る
- ・子供たちが学習内容を深く理解し、身に付けるべき資質・能力や、生涯にわたって学び続けるための意欲・態度を育む
- ・読書教育、ICT教育、外国語教育との相互連携を強化する

○問題解決型の学習過程を重視した授業実践

- ・「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を重視した学習過程の構築を図る
- ・「主体的に学ぶ：児童一人一人が課題を設定し学び続ける」「共に学ぶ：伝え合い、教え合いながら課題を解決する」児童の育成する

○読書活動の推進

- ・日常的に読書に親しむ機会を設定する

○学習規律の徹底

- ・教師・児童ともに真摯に学ぶ姿勢の徹底をする
- ・学びやすい学習環境の整備に努める

○基礎学力の向上

- ・きめ細かい指導を行う（複数の教員による指導、交換授業）
- ・毎時間のねらいを明確にし、児童の興味・関心を高め、指導内容や方法を工夫・改善し、個々の実態に即応した質の高い授業の実践を行う
- ・スモールステップで形成的な評価を行う
- ・必要に応じた個別の補充指導を行い、低学力層の底上げを図る
- ・子どもにとって心の居場所であり生活の基盤である学級においては、具体的な活動を設定し、互いに尊重し合いながら伸び伸びと自己を表現できる学級経営に努める
- ・「わかる授業」の創造に努め、基礎・基本の確実な定着を図る
- ・指導と評価の一体化に努め、子ども一人一人の個性を伸ばす
- ・週案簿や授業観察・面接等により、授業時数の確保と指導内容の確認をしつつ、本校の教育計画を着実に実践する
- ・各種研究会・研修会に積極的に参加し、授業力の向上に努め、子ども一人一人の個性を生かした指導法の工夫を図る
- ・算数習熟度別少人数指導を第3学年から実施する
- ・まなび〜の設定を行い個に応じた補習指導の充実を図る

○ICT機器を活用した授業の推進

- ・長谷戸小学校「渋谷タブレットの日」を設定し、全学級で日頃の活用状況を保護者、地域の方々に公開する
- ・基本的なICTスキルを習得させ、一人一台のタブレットの有効活用を図る
- ・情報の収集・選択・活用する力の育成を図る
- ・電子黒板、実物投影機、コラボノートを活用した多様な学習スタイルの工夫を図る
- ・プログラミング教育を通じた、論理的思考を育成する
- ・情報活用能力を育成する
- ・情報モラル育成を図る
- ・校務支援システムによる校務改善を行う

③ 健康・体力をはじめ何事にも進んで実践する児童（挑戦する子）

○計画的な体力づくり

- ・日常の体育指導の充実、体力・運動能力調査、マラソン週間、なわとび週間を設定する
- ・朝や休み時間、放課後等の運動遊びの奨励（運動量を増やし、健康・体力づくりを推進）する

○グローバルな人材を育成

- ・挑戦する意欲を持続させるために、常に課題意識をもたせる

○家庭・地域との連携

- ・基本的生活習慣の確立、生活リズムの安定（アンケート）、学校・家庭での役割の明確化、地域の教育力の活用（コミュニティスクール）を図る

④ コミュニティ・スクールとしての役割

○地域協働推進委員との連携

- 「地域とともにある学校」という認識のもと、地域との協働による教育活動をさらに活性化させ、児童の全人的成長を図る
- 地域住民が一体となって児童を健全に育成するために地域の教育力を活用する
- 教育活動内容を積極的に発信する

7 組織運営の改善

○前例踏襲ではなく、児童の視点で諸政策を推進するとともに、常に修正・精選・見直しの観点を持ち、分掌の遂行を図る

- ・学年・学級経営案、年間指導計画、週ごとの指導計画、自己申告書で計画・実践の見直しをもつ
- ・常にボトムアップの機会を設け、教員の意識改革を図りながら、風通しのよい組織運営に努める
- ・報告や提出期限を守り、互いに職務が円滑に遂行できるように協力し合う

○学校経営方針にもとづき、中心となる分掌業務には、報告・連絡・相談・確認をしながら創意工夫と責任のもとに中長期的な展望をもち計画的に職務を遂行する

- ・事務担当者など関係者と情報交換して立案し、校長・副校長の決裁を得る
- ・外部との折衝は丁寧に行い、できるだけ文書により依頼するとともに、実践記録を残していく

○会議の効率化を図る

- ・Teamsを活用し、会議を精選するとともに、効率よく進める
- ・お互いが貴重な時間であることを認識し、定時開会、定時閉会を徹底する

8 校内研究の充実

(学習指導要領総則)

各学校においては、問題発見・解決能力などの学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう各教科の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る

各教科・領域で
教科等横断的な視点や実社会との関わりを意識する

研究テーマ 『未来へ 恵比寿へ 飛躍する長谷戸の子』
～自由な発想で、未来を創造できる児童の育成～

急激な社会の変化に対応していくことができる人材の育成

ものづくり体験 教科等横断的な学習

探究的な学習

プログラミング教育 科学的な体験

授業に取り入れるポイント

- ① 実社会で起こりえるような場面設定を取り入れる
実社会の問題を解決するような設定 日常生活 社会問題 災害 等
- ② 実社会と結び付けて考えさせる
実社会からヒント 学習したことが実際にどのように使われているか
- ③ 教科等横断的な視点で考えさせてみる

シブヤ未来科 (STEAM教育)

何かを発想したり、創造したりできる子

実社会の問題点をいろいろな視点から問題を捉えて考えられる子

自由な発想で、自ら問題を発見し、解決できる子

9 関係諸機関との連携

- 鉢山中学校との連携を図り、学習面では連続した効果的な学習指導の在り方を追求するし、生活指導面では、義務教育終了後の「15歳のあるべき姿」を見据えて指導の徹底にあたる
- 地域の幼稚園や保育園との連携を図り、小1問題への対応を円滑に進める
 - ・就学前オープンスクールとして、年間を通して連携を図る
- 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育の充実、重要性を適切に認識し、渋谷区教育委員会指導課・特別支援教育係や校医・都SCとの連携を図る
- 渋谷警察署(スクールサポーター)、青少年対策地区委員会との連携を図り、子どもの安全と健全育成に努めるとともに、犯罪からの未然防止を図る
- 学生等ボランティア(SAM)を活用し、授業の充実を図る

10 学校予算の活用

- 事務主任と連携を図り、効果的・創造的に予算の活用を図り、遊休備品がないよう計画的な物品購入を目指す
- 必要な時期に必要なものを必要量購入し適正な在庫管理に努める
- その他
 - ・私費会計など対外的なことや費用を伴うものについては、年度当初に検討し、計画を示すとともに、負担の軽減および適正な管理と執行に努める

11 サービスの厳正

- 公務員は、「法によって身分が保証され、守られている」とともに、「法によってサービス上の義務が課せられている」ことを意識し、常に勤務の態様を明らかにし、サービスの厳正に努める
 - ・体罰、わいせつ行為、会計事故、飲酒運転の厳禁
 - ・個人情報管理の徹底
 - ・通勤届と通勤経路・方法の一致
 - ・通勤時、授業中の服装に配慮
 - ・勤務の態様の適正化(出勤簿の押印、勤務時間の厳守、年次休暇簿・出張命令簿、研修承認願・研修報告書、旅行届等)
- サービス事故の原因を見ると、自覚、認識、当事者意識の欠如、管理監督者の危機意識の甘さ、継続的指導の不足などが挙げられるため、今一度、自らの職責を十分に認識し、サービス事故「0」とサービスの厳正に努める
- 「暴力では何もかわらない 不信感だけが生まれる」体罰の根絶に努める

12 保護者、地域への広報

- ①子どもが自らの生命を大切に、健康で明るい生活を送れるようにするために、学校は、家庭や地域と連携し合い、一体となって望ましい人間形成を図る
- 保護者や地域の方々と、共に子どもの成長と幸せを願うため、学校としての説明責任を果たす
 - ・個人面談、保護者会等を通し、家庭との協力関係を深める
 - ・学校だより、学年・学級だより、ホームページ、保護者会等で教育活動の内容・実施状況、学校としての課題・対策等を知らせ、理解と協力を求めていく

○接遇に心がける

- ・電話の応対（学校名＋名前）、あいさつ（笑顔＋ことば）、身だしなみ（時と場に応じたふさわしい服装）、ミスの認識（素直にミスを認める態度）などを励行する

○職務上知り得た秘密やプライバシーを厳守する（守秘義務）

○PTAや地域の諸行事は、子どもを多面的に理解したり、保護者や地域の信頼を得たりする上で必要であるため、積極的に参加する

1 3 健康の維持管理

○教職員の心身が健康でなくてはならず、教職員が明るく心身ともに健康であることは、指導や分掌上の活動に活気と創意をもたらすことにつながる

- ・諸問題には一人で抱え込まず、チーム長谷戸で対応をする
- ・心身の健康に関して何か困ったことや悩みごと等がある場合には、早めに相談する
- ・身体の異常については、主治医、学校医や養護教諭に相談し、助言を受ける
- ・健康維持に向けて、長期休業中の活用等を工夫するなど、効率的・計画的に業務を遂行しながら、心身のリフレッシュを図る
- ・日常的に身体を鍛える

1 4 その他

○教育公務員としての言葉遣い、身だしなみを意識し、教育者としてのプライドを常にもち続ける

○来客者には明るく接し、不審者対応としての声掛けも行うようにする

○あいさつは率先垂範し、子どもたちのお手本になるようにする

○管理職への「報告」「連絡」「相談」をこまめに行うようにする

○机上整理、身の回りの整理整頓に心がける

○新型コロナウイルス感染予防対策の徹底に努める